

ストーリー19

国産SAFサプライチェーン構築



1.カーボンニュートラル社会の実現

3.循環型経済の促進

社会課題

国産SAFの安定供給に向けたサプライチェーン構築

■ 取り組み概要

- ✓ 航空産業では、政府が2030年時点で本邦航空会社の燃料使用量の10%をSAF*に置き換える目標を掲げる一方、SAFの主要原料のひとつである食用廃油は、回収された燃料用途の多くが海外へ輸出され、家庭系廃油も十分に回収・活用されていないという課題がある
- ✓ 行政・本部・グループ・スタートアップ等を巻き込み、MUFGをハブに取引先企業、廃油回収業者、SAF製造会社をつなぐ仕組みを構築。加えて家庭系廃油についても回収BOX設置やポイント付与型インセンティブ（本邦初）の検討を進めている

考えたこと
MUFGが

- 支店で横浜DomainPTという枠組みを立ち上げ、社会課題軸で「MUFG×地域×取引先」による価値共創を模索。その過程で、国産SAFの安定供給に向け、廃食用油が国内で十分に活用されていないという課題に着目
- こうした課題に対し、産業界・地域・スタートアップなど多様なプレイヤーと接点を持つMUFGだからこそ、それぞれを繋ぐ役割を果たせるのではないかと考えた
- 産業系廃油のみならずこれまで回収・活用が進んでこなかった家庭系廃油にまで対象を広げることで、より取り組みが進められるのではないかと考えた。また、回収を一過性で終わらせず、地域住民の行動変容につなげるための工夫が必要であると考えた

- 産業系廃油を起点に、取引先企業、廃油回収業者、SAF製造会社を結び付ける座組みを具体化し、国産SAF原料として活用する方向性についての議論・関係構築を進めている
- また従来ほとんど廃棄されてきた家庭系廃油に着目し、取引先店舗への回収BOX設置構想を立案。家庭系廃油の回収を継続的な行動へとつなげるため、韓国スタートアップ企業やMUICと連携し、本邦初となるポイント付与型インセンティブの導入や実証実験に向けた準備を進めている

実現すること
MUFGが* Sustainable Aviation Fuel：廃食油、植物、バイオマス、CO₂などから作る持続可能な航空燃料

ストーリー19

国産SAFサプライチェーン構築

■ 取り組みポイント

- 地域の社会課題に対して何ができるかを起点に、支店内で横浜DomainPTという枠組みを立ち上げ、「MUFG×地域×取引先」による価値共創の可能性を検討してきた。そうした活動を進める中で、食×脱炭素分野における重要課題として、国産SAFの安定供給に行き着いた
- MUFGをハブとして、産業系廃油を排出する取引先企業、廃油回収業者、SAF製造会社をつなぐ回収・供給スキームを構築
- 家庭系廃油の持込みを促進するため、ポイント付与によるインセンティブ設計を本邦初の取組みとして検討

■ MUFGがめざす価値創造



施策・取り組み

- ✓ SAFに関するサプライチェーン形成に向けたスキーム構築
 - 金融機能の提供
 - ビジネスマッチングの実施
 - 廃油回収時のインセンティブ付与

社会的インパクト・達成したい状況

短～中期

- ✓ 国産SAFの原材料・生産量・流通量の増加
- ✓ 国内における廃油リサイクルの一般化

長期

- ✓ SAFに関する循環型サプライチェーンの確立を通じた航空産業の脱炭素化
- ✓ 循環型エネルギー社会への構造転換

■担い手は語る

Q どのような想いで本取り組みを行いましたか？

A 本取り組みは、支店として「社会課題を軸に活動していこう」という意識と、「先義後利」の精神が根付いていたことが出発点です。収益に直結しなくとも、世の中や人のためになることに向き合うことの積み重ねが、結果としてMUFGのブランドや信頼につながると考えています。そうした中で、MUFGトランジション白書などを参考に、社会課題起点で自分たちに何ができるのかを地道に探し続け、その結果としてたどり着いた一つがSAFでした。「MUFGだからこそできることを」という想いのもと、本取り組みを進めてきました。

Q 今後取り組んでいきたいことはありますか？

A 今後は、本取り組みを単発の事例に終わらせず、横浜エリアでの試行錯誤を通じて得られた知見を積み重ねていきたいと考えています。まずは、産業系・家庭系廃油の回収やインセンティブ設計について、実証を通じて課題や改善点を洗い出し、実際に機能するモデルへと磨き込みを進めていきたいと考えています。

その上で、社会課題を軸としたこうした取り組みは、横浜支店に限らず、各地域・拠点でもそれぞれの特性に応じて展開できるものだと考えています。数字や短期成果だけでなく、地域や社会にとって意味のある活動に向き合い続けることで、「さすがMUFGだ」と評価いただけるような取り組みを、拠点単位・エリア単位で広げていきたいと思っています。

<家庭系廃油回収プラットフォーム（案）>

